

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ただいま議長より登壇の許可をいただきましたので、私、公明党松尾陽輔の一般質問をただいまより始めさせていただきます。

今回は、大項目として2つ、1つに、武雄市の取り組むべき政策と対策。2つ目には、新しい福祉に強い公明党松尾としての取り組みについて質問をさせていただきます。

その前に、最近の新聞の社会面、あるいは三面記事に目を向けてみますと、大阪でしたか、2人の幼児の児童虐待、さらには親の遺体をタンスの中に放置するといった、考えがたい痛ましい事件、事故等が全国各地で起きております。

そういった中に、最近、感動と元気をいただいたことがあります。それは、武雄市の子どもたちの活躍でございます。武雄市をもっとよくしたい、武雄市を何とかしたいというこども議会での活発な意見と提案、さらには佐賀県代表として全国大会での武雄中学校の女子剣道部の大活躍、さらには小学生でも陸上、柔剣道など全国大会で活躍をされております。全校生徒110人の小さな若木小学校でも、佐賀県ナンバーワンを勝ち取り、全国大会の大舞台へと見事な活躍ぶりで行っていただきました。厳しい日々の練習を乗り越え、勝利した感動と元気を与える子どもたちの活躍が、また、子どもたちの声が聞こえる地域づくりを何としてでも武雄市は最優先課題として取り組むべきと再認識したところでございます。

次に、政治経済に目を向けてみますと、皆さんも連日の報道で御存じかと思えますけれども、民主党の代表選、来週の14日には総理大臣も決まると思いますが、民主党にとっては、政局も大事でしょうが、皆さん、私はいち早く具体的な政策、対策を打つべきだと考える一人でございます。今、日本経済を見てみますと、急激な円高ドル安、景気は今や二番底に突入したとも言われている状況にあります。

1950年、60年代、私が産まれたころですけれども、1ドル360円、365円の時代でございました。今、皆さん1ドル85円ですよ。（発言する者あり）はい。きょうの朝方、ニューヨーク市場を見てみますと、83円。当時、海外旅行に100万円かかっていたことが、現在では25万円で海外旅行できる状況にありますが、この円高によって大打撃を受けている産業がございます。輸出産業を中心とした大手の自動車会社、例えば、85円が84円、何と1円、円が上がることによって大手輸出企業は、大手自動車会社は1円の差額で何と経常利益が300億円、500億円という損失が出ております。そういった状況の中で、株価も連動してなかなか上昇傾向に向かっておりません。円高は、企業が海外に店舗を持つという追い風になっております。武雄市も企業誘致に力を今後入れていく上でも、我々も含めて一層の努力が必要かと判断をしているところでございます。

そういったときに、手元に2010年6月期の企業短期経済観測調査、略して日銀の短観、皆さんも御存じかと思えますけれども、全国1万1,411社の調査結果が出ております。業種、あるいは規模によっては違いますけれども、この中身を見てみますと、状況判断でさほどよ

くなっていないとの比率が一番高く数値が出ております。なかなかこの日銀短観でも景気の回復がまだまだ厳しい状況でございます。さらには、8月31日の佐賀新聞、「業績改善も先行き不安」という記事が載っております。こういった状況の中で、行政は、県は具体的な、小さな政府として打っていく必要があるかと思えます。

皆さん、御存じでしょうか。日銀の短観ではありませんけれども、武雄の短観、「武雄短観」という記事が小さく載っております。もっと大きく、重要な調査結果ですから、こういったことでまず最初に、武雄市の取り組むべき政策と対策の小項目である地域経済の浮揚について、この武雄短観、武雄市の短期経済観測の結果についてどのような結果が出たのか、また、今市内の中小企業の景気はどうか、武雄短観の説明から答弁を求めていきたいと思えます。どうかよろしく願いをいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

武雄短観についてお尋ねがありました。これは武雄市短期経済観測調査の略で武雄短観と申し上げますけれども、調査目的は、本市の経済動向をよりの確に把握するため、調査対象は武雄市内事業所100カ所、調査時期は日銀短観に合わせて年4回、すなわち3月、6月、9月、12月であります。調査方法は、電話による聞き取りということで、調査内容は、現在の景況感、景気感、よい、普通、悪いのいずれかを回答していただきます。そしてもう1つが、3カ月後の見通し、よくなる、変わらない、悪くなるのいずれかを回答していただきます。

今まで2回、ことしの3月と6月に行いましたけれども、3月と6月のこういう比較ができるんですね。3月の調査では見通しがマイナス17ポイント、要するに「よい」という人から「悪い」という人を引いた17差があるわけですね。6月は、今度はプラス1になっているんですね。「よい」という人が「悪い」という人を1上回っているということで、その差を引いたときに3月と比べれば6月はよくなっているという結果が出ています。しかし、今度9月にまた日銀短観と合わせて行いますけれども、これは非常に今悲観的な思いであります。

先ほど議員からありましたように、急速に進む円高状況の中で、またこれがちょっと1点悪くなるんじゃないかなということを思っていますので、じゃ、どうするんだということについては、こういう状況を踏まえて私どもとしては、これは農業、建設業、製造業と区分けしてしていますので、それぞれに何が必要かというのを対策をきちんと打つ必要はあるだろうということ。

それともう1つが、やっぱりよく考えなきゃいけないのは、武雄の特性をどういうふうにか考えるかと。おかげさまで、今度新武雄病院が、今住民訴訟になっていますけれども、34号線のバイパスのところは今基礎工事が終わってどんどん建っています。今までの雇用がほと

んど公務員で100人だったのが、今雇用だけで300人ぐらいもうなっているんですね。一番多いときは500人ぐらいなるんですね。ですので、そういう意味から、病院を私としては雇用の場の中心にするのと同時に、そして、これが建設業、農業、観光業につながるよううまく仕掛けていくのが首長の仕事だと思っています。ですので、もう通り一遍やってもだめだと思うんですよ、言葉で言っても。ですので、武雄の売りはこうなんだということを言って、それを企業誘致等に結びつけていく、あるいは雇用の増に結びつけていく、仕事の増に結びつけていく、所得の増に結びつけていくというように私はしていきたい。今は武雄にとってピンチなんですけど、よく考えるとチャンスだということを思っていますので、それに意を注いでまいりたいというふうに考えております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

国策、今の与党でいつ経済対策が打たれるかというのが非常にわからないというか、不透明なときですから、小さな樋渡政府の中で確実にやっていただきたいと。せっかくの武雄短観ですから、県内でも唐津がこの短観調査をやっているかと思えますけれども、先駆けというような部分の中で短観情報調査をされておりますので、何としてでも調査が調査で終わらないように、これも幾らかのコストをかけての調査ですから、ぜひとも経済浮揚につながる対応をぜひよろしく私から念を押しておきたいと思えます。

そういった中で、先ほど新武雄病院の雇用の部分の中での地域浮揚というふうな話も市長はされたかと思えますけれども、私から2つ景気採択に対しての提案を申し上げておきたいと思えますけれども、きのう川原議員のほうからもプレミアムつきの商品券、武雄で買い物をする券というふうな話がありまして、公明党も以前、定額給付金というふうな部分の中で、非常に大好評を受けた政策を打たせていただきましたけれども、きのう答弁の中では、今後商品券、振興券あたりは計画にないという市長からの答弁をいただいたところでございますけれども、やっぱり財源がどうしても出てくるわけですね、裏づけの部分の財源が。その中で、ちょっと私も頭をひねりながら、新たな財源ではなく、また住民訴訟費用等もありますから、そういう部分の中で、今補助金がいろんな部分で各団体とか、いろんなところに出されているかと思えます。例えば、定住特区の補助金、3人家族で新築をした場合に約70万円、その家庭に補助金として支給をされておりますけれども、その一部を、例えば70万円のうち20万円を地域振興券で、武雄で買う券というふうな部分の中での地域振興券の活用をしていただければ、新たな財源確保というよりも、あるものをいかに生かしていくかという部分で今回ちょっと提案を市長にさせていただきたいと思えますけれども、ちょっと御答弁、御見解をお願いしたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

御卓見だと思います。ただ、ちょっと制度を考えたときに、あくまでも定住特区の補助金というのは、円滑に引っ越しをしていただいて、円滑に生活がいくということで現金支給というふうになっていますので、ちょっと制度の趣旨が——特典の武雄で買う券ですね、プレミアム商品券とちょっと異なりますので、そこはやっぱり制度を一緒にたにしないほうがいいのかなということは思いました。

ただ、財源論からすると、貴重な御意見だと思いますので、そういう考えはまた取り入れてまいりたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私も制度上の問題に関しては、その辺も十分認識した上で話をさせて、提案もさせていただいたところでございます。

前回の地域振興券でのノウハウはもうあるわけですから、ノウハウは。そういった状況の中で、具体的に制度の見直しをしていただいて、ぜひともそれにはもう金がかからない、現にある補助金の部分を活用すると、非常に効果がまたそういう面では出てくるかと思えますけれども、いま一度御答弁を。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

先ほどの松尾陽輔議員の御指摘で、なるほどそうだと思ったのは、既存のものを財源にするというのはなかなか我々のかたい頭だと出てこないんですね。ですので、ひとつ私からの逆提案なんですけれども、例えば、出生祝い金、例えば、今はちょっと出ていないかもしれないんですけれども、敬老の部分で何らかのお祝いをするときに、それを言い方はちょっとどうかわかりませんが、武雄で買う券と、プレミアム商品券にすると。そこには、例えば1割、2割増しのポイントがついているということは、それは考えられるのかなというふうに思いましたので、ぜひそういう、今の祝い金の制度がある中で、それを原資としてちょっと考えられる分は考えてまいりたいと、このように思っております。貴重な御意見ありがとうございます。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

一例で定住特区の補助金を活用したらという部分で申し上げたところで、そういうふうな祝い金とか敬老会の分に関しては、ぜひともそういうふうな形での対応をお願いしたいということで御提案をさせていただきました。

もう1点、提案といたしますか、今、誘致企業に伴う企業への特典があります。ちょっと中身的には企業立地奨励金ですね、この分に関しては土地、建物、投資金額が2,000万円以上の企業に関しては固定資産の相当分、3年間を減免する。あるいは雇用奨励金、1人当たり50万円、2,500万円を限度にと、あるいは利子補給というような部分の恩恵、特典があります。あるいは企業立地促進特区指定奨励金に関しては、製造業、あるいは卸売業の投資金額が3億円以上という部分に関しても税の特典というような部分が条例でも決まっておりますけれども、これに該当しない、一定条件を満たさない企業といたしますか、市長、大企業、日本は98%が零細中小企業で成り立っているというのが日本経済ですよ。支えているのは中小零細企業、それが98%いらっしゃるという中で、その大企業の恩恵は、それは当然雇用もロツト的にも大分大きいですから、いいでしょうけれども、その零細中小企業にも何らかの形で特典というか、例えば個人事業税の減免、あるいは法人税の一定期間の減免というふうな部分の、ぜひこれも地域浮揚、経済浮揚の一役を担うんじゃないかという部分で、これも私からの提案ということで申し上げたいと思いますけれども、御見解を市長お願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

確かにそうなんです。今までの、これは県もそうなんですけれども、大企業を中心とした誘致のスキームに、仕掛けになっていますので、それにもう少し幅を広げられるように、もう何でんかんでんというわけにはいきませんので、業種であるとか、例えば従業員数であるとか、そういう幅を持たせた上で、ちょっと制度設計をしたいと思います。

また、やっぱり思うのは、あとオーダーメイドですよ。だから、例えば、言い方はどうか分かりませんが、こう言ってきてもらうところにねらいを定めて、そこがどういうふうなことを欲しておられるかというのを機動的、弾力的に幅のある条例でスピードを持って対応すると。よく企業誘致を仕掛けて、私も高槻市役所時代、その担当でしたので、仕掛けたときにやっぱりスピードが命だということを言われますので、そのスピードに対応できるような条例を含めた仕掛けを考えてみたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

今の経済状況といたしますか、先行き不透明な中で、武雄市経済を何とか活気あるものにしたという部分の中で、2点、私のほうから提案をさせていただいたところがございますの

で、ぜひとも制度化見直しをしていただいて、早急に、もう待たなすから、経済は。そういうふうな状況の中で、速やかに政策の実現をよろしくお願いを申し上げるとともに、大型プロジェクト、大型の部分もいでしょうけれども、1点に集中しないように、例えば、武雄の新市民病院におかれましても相当なる50億、60億円という投資がされる一方、不特定多数、相乗効果があるような働きかけをぜひともお願いしたい。例えば、納入業者を地元地域からしていただくとかというのが地域の相乗効果につながるわけですから、そういうふうな部分も今後御検討していただくことをお願い申し上げながら、次の社会基盤の老朽化について質問を進めさせていただきたいと思います。

これは、きょうも山口昌宏議員、それから松尾初秋議員からも質問があつておりました。若干重複する部分があるかと思えますけれども、道路、橋、それから下水道ですね、もう全国的にこれは社会資本の老朽化ということで今問題視をされておられます。この分に関しては、1950年代からの高度成長期にもう一挙にこういうふうな整備をしたものですから、それが今耐用年数に伴っての老朽化というふうな部分の中で、国交省の最新の白書によれば、2029年度には道路、橋などの51%、もう半分は築50年を超えるという統計が出ています。そういった状況の中で、当武雄市でも耐用年数を超えた施設と申しますか、そういうふうな実態調査をされて、例えば道路、橋、公共施設、下水道の状況がどのような状況なのか、ちょっと確認をさせていただきたいと思えますけれども、御答弁をよろしくお願ひいたします。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

耐用年数を超える施設のことをございますけれども、道路関係に関してですけれども、主に路面舗装、それと先ほど議員申されました橋梁があるかと思えますけれども、市内980路線あるわけですから、何らかの形で補修を要する路線、約50%、440路線を必要とする路線と確認をしております。距離といたしまして345キロ、その補修面積ですけれども、面積といたしましては82万1,000平方メートルを確認しております。

それと橋梁ですけれども、先ほど537橋のうちと申しましたけれども、耐用年数を過ぎた分につきましては昭和45年以前の架設ですけれども、119橋を確認しているところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

下水道関係はどういうふうな状況ですか。御答弁できますか。

○議長（牟田勝浩君）

森まちづくり部長

○森まちづくり部長〔登壇〕

下水道施設については今始まった事業でございまして、耐用年数が過ぎた施設はございません。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

下水道は当然、私も若干勘違いして申しわけなかったんですけども、上水道、配水管あたりの状況はわかりますか。いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

宮下水道部長

○宮下水道部長〔登壇〕

延長にしまして約30キロメートルでございます。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ちょっと今回は配管の部分に関して話をさせていただきますと、30キロメートルがもう耐用年数を経過しているという部分の中で、手元に配水管の計画的更新というような部分で資料をいただいております。配水管の耐用年数は40年とされておりますが、耐用年数を超える部分が30キロメートルあるというふうな部分の中で、適時漏水調査を行いながら年次計画を立てた形で計画的に更新していく必要がありますということで、計画も立てておりますけれども、この分の進捗状況はどうか、計画どおり進んでいるのかどうかちょっと確認をさせていただきたいと思っております。御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

宮下水道部長

○宮下水道部長〔登壇〕

水道施設の老朽管につきましては、昨年度までは予算が3,000万円でございます。今年度から事業費を大幅にふやしていただきまして、その老朽管を計画的に整備していくということで、今年度から計画的な更新に着手したところでございます。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

何を言わんとするかという部分に関しては、やっぱり計画的にやっつかんと、一遍に更新はできませんよと、一遍に更新したときはそれだけの費用がかかりますよと。6月の定例のときの質問で、将来負担比率という部分の中で、武雄の土地開発公社の部分で指摘をさせ

ていただきました。今現在の評価見直しをしていかんと、将来の子どもたち、将来に相当なる財政に負担が来ますよというような部分で土地開発公社の指摘をさせていただきましたけれども、これもまさにやっぱり年次計画を立てて更新をしていかんと、一遍にする財政力がないわけですから、その辺は確実に計画を立てられた以上はきっちりと計画内で工事を進めていくというのが、今回、国交省からも長寿化計画ですか、策定をなさいという国交省からの指示が来ているかと思います。道路関係、橋梁もですね。それも適切に状況判断をしながら計画策定をしていただきたいということで私からも念を押させていただきたいと思います。

それにあわせて、現在、農業関係者を中心にため池とかいう問題も非常に問題視されておりますけれども、以前、牟田議長も質問されたかと思っておりますけれども、周辺部でもう1点、地域の問題になっているのが、河川の転倒堰が非常に最近問題になっております。老朽化による更新ですね。転倒堰は農業用水、若木の場合はですね。あるいは上水道に利用というような部分で非常に利用されておりますけれども、それがもう老朽で、本部地区なんかはその修理に1,000万円かかるというわけですよ。あるいは見積もり次第では1,000万円、1,500万円という費用が。それが6カ所、7カ所ある中で、我が下村地区にもありますけれども、ポンプの修理だけでも500万円、600万円という部分の中で、もう喫緊の課題となっている転倒堰の更新については、それは国の補助金等もあるかと思っておりますけれども、故障してからでは遅いわけですから、ぜひとも市挙げてこれに関しては取り組んでいただきたいという部分で御提案、社会基盤の整備という部分で転倒堰を質問させていただきましたけれども、その辺の対応について状況と、ぜひともその辺の早急な調査と今後の対応について御見解をお尋ねしていきたいと思っておりますけれども、御答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

刈野営業部長

○刈野営業部長〔登壇〕

ただいま河川に整備されております農業用の河川工作物の改善、あるいは修繕等々に要する費用についてでございますけれども、これにつきましては、河川管理施設応急対策基金に照らしまして、農業用河川工作物応急対策事業で対応することはできます。がしかし、今議員御質問にありましたように、その農業用施設は受益者に負担を求めるものでありまして、ほかの農業用施設も同じでございますけれども、そういう兼ね合いから、こういう河川での工作物についても受益者負担が発生して、地元の負担が、先ほども言われましたように、1,000万円の工事費で仮に農林業施設の事業分担金徴収条例を参考にして算定しますと、1,000万円で、地元と市が折半するといまして、18%が地元負担でございますので、180万円、それを半分にしまして市90万円、地元90万円ということで大変な費用負担になるということについては認識をしています。

この質問につきましては、先ほど出ましたように、若木町のほうからうちのほうにも打診がありまして、地元にお話しに行っております。この事業制度を申請してから実施までは2年ほどかかることを説明し、いずれにしても、地元負担の関係で他の方法がないかということで、地元で再度協議をしてみるということではございますけれども、現在のところ多額の地元負担を要するというふうに認識をしています。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

その辺の負担比率は私も調査をさせていただいて、状況は認識をさせていただいておるつもりですけれども、受益者負担の部分ですね、あるいは今後の維持管理、ランニングコスト部分も費用が出てくるわけですよ。そういった部分とか、なかなか地元で協議しても負担の分が一番重荷になっているという部分が現実にあるわけですよ。その分を何とかクリアして、もう早々にしていかなないと前に進まないというような状況ですから、ちょっといろんな形で、もう一度早急に対策を地域の方々と話し合いをしていただきながら、転倒堰、1基だけではありませんから、市内全域になると相当な金額になってくるわけですから、早急な対応をぜひお願いしたいというような部分で、切にこれは要望しておきたいと思っておりますので、いま一度御検討をよろしく願いしておきます。

それとあわせて、転倒堰なものですから、魚、あるいはいろんな部分の中で、生態系も変わってきています。以前はウナギとかいろんな部分で川に生息しとったんですけれども、今はもうほとんどいないというような状況の中で、生態系、水の質も変わってきていますものですから、あわせてその辺の生態系の調査、あるいは水質調査という部分もあわせてしていただき、ぜひともよろしく願いを申し上げながら、市長、その辺の転倒堰の対応に対して何かあればよろしく願います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

これは転倒堰に限らないんですよ。訴訟費用ばかり出して申しわけないんですけれども、共産党のお二人の議員さんが記者会見までされて訴訟をされていますけれども、このもともと先細る財源の中で、訴訟費用が加わることによって、それに限らずこういった、これは入っていますよ。ですので、私としてはこう考えています。それはもう司法の話ですので、それはそれとしてちゃんと我々の主義主張は通していきたいと思っておりますけれども、こういう認識をぜひ市民皆さんとともに共有してほしいということと同時に、私とすれば、やっぱり財源の確保なんですよ、財源の確保。これについては、私たちとしては、やはりあらゆる無理とか無駄をもう一回総ざらいをさせていただきます。その上で、議員の御指摘の事業と

というのは我々も、これは牟田議長も質問されていたように、これはもう本当に安全、安心に直結するような話ですので、これについては財源を確保でき次第、早目早目にやっぱりしていきたいというように思っておりますので、ただ、今法人税とか市民税がまた減りそうな感じですので、それは財源をきちんと確保しながら、そして、これは山口昌宏議員からもありましたように、その補助金をきちんと取ることによって、やはり市民の安全、安心に力を傾けてまいりたいと、このように思っております。そういう状況をぜひ市民の皆さん方とともに共有をして、1歩でも2歩でも前進するようにしてまいりたいと、これが首長の役割だと思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

市長、そういった事情は私も十二分にわかっております、住民訴訟の費用の分に関してはですね。いろんな部分での予算づけに回している部分が、そっちのほうに財源が割り振りされると、私も非常に意を申し上げたいと思いますけれども、ただ、いろんな部分に関して優先順位をつけていただきながら、すべきものは事業として継続もしていかにやいかんというふうな状況ですから、よろしく御検討をお願い申し上げます。

それで、非常にお願い、提案で申しわけないんですけれども、周辺部対策についての質問に移らせていただきますけれども、もう常に私も周辺部というか、若木からですから、いろんな周辺部対策に力を入れさせていただいております。例えば、限界集落が武雄市内でも何カ所か出てきていると。あるいは人口減少の中、何とか人口対策、あるいは高齢化による耕作放棄地を何とか食いとめなければいけないという部分の提案、あるいは空き家対策というような部分に関しても、いろんな話をさせていただきながら、ことし3月議会でしたか、もう市長、周辺部においては補助金よりも補助人を何とか手当てをしていただきたいという話の提案もさせていただいたところですが、今回はちょっと視点を変えて、今、周辺部では、それは中心部もそうでしょうけれども、高齢化によってなかなか交通手段がなくて買い物にも行けないということで、さきの新聞にも武雄市東川登の楠峯地区、集落から店が消えると、「『買い物弱者』の今」ということで報道されておりました。

そういった状況の中で、今回、生活路線のみんなのバスということで市長の提案によって動き出したわけですが、そういう面では非常に今後、その辺の不便さが解消されていくものと私も思っております。

ただ、そういった状況の中で、地元のことを申し上げますと、Aコープがなくなって、今、民間のスーパーが開業されておりますけれども、これも先ほど申し上げました誘致企業じゃないでしょうけれども、やっぱり地域になくはならないスーパーというふうな位置づけの中で、非常に町民の方も喜んでいただいております。

そういった状況の中で、先ほど企業誘致の中で、そういうふうな中小零細企業も何とか税金の免除とか事業税の一定期間の考慮をぜひともお願いしたいという部分で御提案をさせていただいたところですが、地域になくはならない、こういうふうな進出企業に関しても、やっぱり非常に若木では喜んでいただいているというような状況ですから、この辺の特典もぜひとも御検討していただきたいと思っておりますけれども、御見解はいかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

今のところ、こういった融資事業としては国、県、市、それぞれあります。それが基準に合うかどうかはちょっと精査をする必要がありますけれども、その御紹介と、そのプッシュはできるということは思っています。

それよりも、私は2点ぜひお願いしたいと思うんですね。まず、みんなのバスです。みんなのバスについては、私の政策集に掲げ、もう始まったところでもありますけれども、今山地区と追分を中心としたら非常に評判がいいです。ですので、それがやはり地元の、例えばタクシーとかバスとの関係はありますけれども、それをぜひ若木でも取り入れてもらって、これは私がこうしろあしろじゃなくて、その停留所を若木のAコープで今経営されているところに置くというだけでも多分、売上げが大分変わってくると思います。

それともう1点であります。これは非常に言いづらい話なんですけれども、やっぱり地元の方がその商店に行ってもらおうということに尽きると思います。私事になりますけれども、例えば、私も妻もそうなんですけど、なるべく地元で買うようにしています。一番下が鮮魚店だということもありますけれども、例えば、かつおぶしだったら中町のところとか、可能な限り徒歩で買えるようにして、それがお店の振興にとって一番だと思うんですね。

ですので、そういう意味からすると、例えば、若木町にあるとするならば、そういったみんなのバス等を活用しながら、あるいは車で市内、市内というか、こっちの真ん中のほうに働いておられる方々もぜひ、何日かに1回か、毎日が本当は一番いいかもしれませんが、使っていただくということで、ぜひ松尾陽輔議員におかれてはその先頭に立って、Buy若木運動をやっていただければありがたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

地元のお金は地元で落とすというのが一番経済効果が上がるかと思っておりますので、例えば、みんなのバスも先ほど市長が言っていただいたように、地元のスーパーに行くというふうな機会も今回のみんなのバスで利用が可能ということになっているかと思っておりますので、その辺も私も一利用者として活用していきたいというふうな形で思っております。

そういった中で、8月3日に少し話は飛びますけれども、大楠公園に観光連携と、資源を生かした仕掛けということで、武雄、熊本、鹿児島のはじめ市ですか、大楠を御縁に観光誘致の報道が佐賀新聞でされておりました。この3市連携の経緯と今後の計画について、地元若木、大楠を抱える地元として、どのような経緯で、また今後どのような形でこれが計画されていくのかどうか、ちょっとお知らせをしていただきたいと思います。よろしく願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

事の経緯は、6月だったでしょうか、国土交通省の事務次官、河川局長に要望に行ったときに、これはたまたまですけれども、幸山政史熊本市長と席が同じだったんですね。もともと幸山市長と私は友人ですので、幸山市長が、いや、自分のところにも楠があるということ言って、これを何らかの形で観光の再生につなげたいとおっしゃったので、樋渡さんどうすればいいと言われたんで、組みましようということ言ったんですね。

これは私の経験もそうですけれども、武雄市にはいろんな財産があります。あるけれども、それをただ単にこれがあります、ありますと言っても、全国1,700の自治体、同じことを言っているんですね。ですので、そればかりはだめだと。そればかりではだめだということで、例えば、観光でいうと九州三都物語として湯布院と小国と杖立と組んだと。今度もう少し広がるみたいですが。そして、日本人というのは「3」という数字が大好きなんですね。ですので、幸山市長と話をしたときに、じゃ、どこをもう1つ加えようかといったときに、よくよく考えてみると、九州に楠の一番大きな、全国1位の、合併して今、はじめ市と言いますが、はじめ市の蒲生の大楠と、熊本市の全国6位の藤崎台の楠木群、そして私どもと加わることによって、今あるものを生かす、そして連携をするということで地域活性化を図りたいという観点から、8月2日に熊本市におきまして3首長集まって共同記者会、これが物すごく大きなニュースになって、私たちが思っている以上にニュースになって、実はブログDEスタンプラリー等やっているんですね。もう既に達成者が3名いらっしゃるんですね。3つ回って、それを写真にしてブログで出す。それぞれ今企画中ですが、3つ回ったら何かプレゼントを差し上げたいということで、それを今3市の観光課を中心に精力的に行っているところであります。

今後は、単に観光客の周遊、これはもちろん宿泊につなげることは第一なんですけれども、武雄の大楠でも、若木の大楠でも、物すごくやっぱり思いがあって、その保存と活用をされている皆さんたちがいらっしゃいます。そういった方々の、おのおの地域の市民団体同士の交流を深めていきたい。これは九州三都物語のように深めていって、地域資源の活用を考えるシンポジウムの開催をぜひ今度は武雄でやりたいと思っています。これも宿泊につ

ながら仕掛けをしたいというふうに思っています。

そして、これは女性誌に「CREA」というのがあるんですね。多分、女性誌の中で一番販売部数が多い「CREA」、この中にパワースポットの特集があって、これも非常に売れたいですね。その中に武雄の楠が2カ所、武雄の大楠と若木の大楠が入っているということもありますので、今後はパワースポットという側面も出していきながら、これは従来の観光客の層と違う層がやっぱりいらっしゃるんですね。ですので、これは広がりを持って、それを宿泊につなげていくということ、武雄に泊まれば効き目3倍とか言いながら、進めていきたいというふうに思っておりますので、いずれにしても、パワースポットブームを追い風に周遊イベントもきちんと企画をしたい。

そのときに大事なことは、余りお金をかけないということだと思っておりますよ。余り行政依存になって、大体行政が先走っていると、こけます。ですので、よく民間の皆さんたちの力を結集しながら、それは熊本市も始良市もそうですけれども、それで九州一丸となって進めていく、それぞれの果実がそれぞれの地域にちゃんと浸透していくというような仕掛けづくりをしていきたいというふうに思っています。この件に関しては熊本市長さんが実行委員長ですので、よく熊本市長さんを支えながらこの企画を進めていきたいと、このように考えております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

今後は、いかに官民一体となって事業を一緒にやっていくかということが非常に大事な部分があるかと思っております。

そういった中で、今、現実といいますか、若木の大楠は若木で指定管理者制度のもとで運営をさせていただいておりますけれども、ここに来て若干観光客が減少しております。ただ、今回このような市長の仕掛けで非常に期待をしていますし、そういった状況の中で、やっぱりおもてなしというような部分も必要かと思っております。おもてなしという部分の中で、もう少し施設関係も整備をさせていただきたいという部分で要望になるかと思っておりますけれども、若木町のまちづくり交付金で何とか対応をというような部分も考えてはおりますけれども、一部施設に限っては何とか市の予算で対応ができないかという部分の中での要望ですけれども、例えば、看板がちょっと見にくいといいますか、通り過ぎて伊万里まで行かれる方がいるわけですよ。そういうふうな状況の中で、何とか大楠の入り口の大きな看板、あるいは前の水車が非常に老朽化が、今ちょっとあちこち損傷していると。あるいは、今、議長のところ「がばいばあちゃん」のロケセットを置いていただいて、何とか大楠と一体化した中で、いま一度のがばいブームといいますか、今回、GABBAも韓国やったですか、そこで公演というような部分も話が出ておりましたけれども、そういうふうな部分で何とか一体となっ

た計画も今計画をしている状況の中で、市としても何とかその辺で対応できないかというような部分での要望をちょっとここでさせていただきたいと思いますけれども、市長の御見解をここで確認をさせていただきたいと思いますので、御答弁をよろしく願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私から2点お答えしたいと思います。

まず観光看板については、私としては景観に溶け込んだような看板にしたいと思っております。何でもかんでも看板を外すのではなくて、例えば、湯布院が行われているみたいに、木質の看板をきちんと行くと。それと、これは山内町が非常に進んでいるんですけれども、例えば、黒字に白の文字の看板にするとか、そういうデザイン性のある、しかも設置の有無も、これはしっかり若木町の皆さんと話し合いながら進めていきたいというふうに思っております。私よく勘違いされるんですけど、看板廃止論者じゃありませんので、看板倒れにならないようにまた進めていきたいというふうに思っています。

それともう1つなんですけれども、御指摘のありました施設の分については、これも今ちょっと財源が、もう言いませんきょうは、訴訟費用のことは。言いませんけれども、やっぱりそれが非常にカウンターパンチのようにきいてまいりますので、その限られた財源で、やはり命、安全、安心になるべく重点配分をしていきたいというふうに思っていますので、それはちょっとお酌み取りをさせていただきたいと思います。

で、終わりにしますけれども、川古の大楠公園の水車については、今までも一部改修等を行っていますけれども、水車の改修についてはきちんと市のほうで、これは観光財産でありますので、考えていきたい。そして、「がばいばあちゃん」のロケセットでありますけれども、これはよくフジテレビの皆さん、あるいは牟田議長の御自宅も貴重な場所を貸していただいておりますので、よく話し合っ、それが観光につながっていくようなことにしていきたいと思っております。

そして、もう1点ですけれども、風穴、サガテレビのかちかちワイドでも出て、これは非常に私もよくお聞きしますけれども、以前、牟田議長と一緒に登りましたよね。登って、これが恐らくパワースポットとして、風穴と、多分、若木は大楠が一つのルートになると思うんですよね。ですので、そういう物語づくり、単に行くではなくて、この2つを結びつけるような物語をですね。

ですので、そういう観点から、大楠と風穴が結びついて、若木の場合はさまざまほかにいるような各区でも1つ2つあるというのはよく認識していますので、それが面に広がっていくような仕掛けをしていきたい。そのときには多分、中心が川古の大楠だと思いますので、そういう観点から事業を進めてまいりたいと、このように考えております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

永野の風穴の話が出ましたので、8月に一番低温が8度ですよ、この時期に8度。一回皆さんぜひ行っていただいて、その8度を肌で体感していただければと思います。そういった中で、大楠とコラボというか、風穴ですね、非常にいいかと思います。

ただ、話はもとに戻りますけれども、施設整備もおもてなしの一環ですから、ぜひその辺もよろしく願いをしておきながら、仕掛けという話の中で、私からもひとつ市長に仕掛けをお願いしたいというか、仕掛けの提案をさせていただきたいと思いますが、きのうイノシシの話が谷口議員のほうから出ていました。私も人の集まる仕掛けは非常に大切だと思っている中で、イノシシの食卓自慢コンクールという部分の中で、若木は若楠ポーク、日本一の若楠ポークがあるわけですよ。それとタイアップした全国コンクール大会じゃないでしょうけれども、特に武雄市は食育に力も入れていますし、そういうふうな部分で何とかそれをコラボしながら全国に発信するという仕掛けも非常に面白い、イノシシ課の部分のイノシシも非常に特産として力を入れていく上でも、いい仕掛けではないかと思いたすけれども、市長いかがでしょうか、見解をお願いしたいと思いますけれども。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は実は急には答えられない性格です。実は、日田市とイノシシ対決をしようという話は、まだ日田市長さんと私だけなんですけれども、進めようかなと思っています。向こうもイノシシを使った郷土料理で、私どもも日田市としようかなという話も出ていますし、以前、伊万里市長さんと私で、向こうは伊万里牛課でしたっけね、うちはイノシシ課ですので、伊万里と何か対決をしよう。ですので、コンクールではなくて、恐らく多分、市民的、あるいは国民的に盛り上がるのは対決物なのかなと、コンクールよりも。で、余り市長賞とかやるとまた怒られますので。ですので、そういう対決をそういう感じでしていきたいというふうに思っていますので、またこれは制度設計も含めて、ちょっと時間もかけてしていきたいというふうに思っております。

いろんな食を通じたイベントだと、若木の本部の湖ですよ。そこで、私も何回か行ってきますけれども、若楠ポークを大勢の皆さんたちに振る舞われるということとか、例えば、楼門朝市等でイノシシを出したりとか、だから、そういう今あるところでそういった仕掛けをしていったほうが、恐らく来られた方々もさらに喜ばれると思いますし、それをまた目玉にして言うと、さらに人が集まられると思いますので、ちょっと今回の若木の湖のあのお祭

りには到底間に合いませんけれども、今後はそういう今あるイベントにそれを付加する形でしていければいいなというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

よろしく願いを申し上げながら、次の質問に移っていきたいと思います。

次は、継続事業について確認をさせていただきたいと思います。

この9月定例議会が来年度の予算要求というか、予算に向けての非常に大切な質問でもありますもんですから、1点だけ継続事業という部分に関しての市長の御見解をただしていきたいと思っております。

まず、学校の特別支援事業について、今、現民主党の政権では支援事業の予算が削減というような部分で公表もされておりますけれども、この支援事業に関しては学校、保護者、あるいは現場の先生たち、また生徒も非常に好感を持って、また高く評価をされているものと私自身も認識をさせていただいておりますけれども、教育長として、この辺の学校の特別支援事業に対する評価をどのような形で具体的に身近にとらえられておられるのかどうか、それにあわせて、教育長の答弁を受けながら、ぜひとも市長、この特別支援事業に関しては、予算の厳しい中で、ぜひとも来年度もサポート、いろんなサポート事業もある中で、最優先課題の取り組み事業として事業の継続をこの場で申し上げていきたいと思っておりますけれども、教育長の答弁の後に、御見解までよろしく願いを申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

浦郷教育長

○浦郷教育長〔登壇〕

今年度7校一円に9名、特別支援学級補助ということで入ってもらっております。1学級に4名とか5名、6名という子どもたちがいた場合に、一人一人課題があるわけでありまして、通常の授業の移動であったり、介助であったり、休み時間の安全確保であったり、校外、学校行事等々の介助ということで、担任だけでの全体的な対応が難しい場合に対応してもらっているということでもあります。

担当者の頑張りもありますし、子どもたちの成長につながっているということで、当然のことではありますけれども、そういう頑張りの中で、学校、保護者からも意義ある制度として受け入れていただいているという状況でございます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私のほうにも評価については教育長の答弁と同じ評価が入っていて非常にうれしく、心強く思っています。

今後なんですけれども、議員御案内のとおり、緊急雇用創出基金事業については23年度までの予定になっておりますので、来年度も緊急雇用創出基金事業を、これは活用をお約束します。その旨で、保護者、学校からの要望をまた確認して、児童・生徒の支援のための補助員の配置をきちんと行いたいというように思っています。ですので、23年度まではお約束はできるということだけは一応申し上げたいと思います。それ以降については、またちょっといろいろ考えてみたいというふうに思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

先ほどの教育支援事業のほかにも、ファミリーサポート事業ですか、いろんなサポート事業がありますし、ぜひとも継続事業として、事業の予算確保に向けて各部署に関してはよろしくお願いを申し上げながら、継続事業の最後の質問になりますけれども、以前、一般質問の中に起債、要するに市役所の借入れの高金利に関しては借りかえ、あるいは繰上償還をぜひされたほうがいいですよと、当時、今の一般の金融機関の借り入れが、例えば一、二%とすれば、起債で一番高いのがもう7%、8%という起債の金利があるわけですよ。これをぜひというような部分の中で、積極的に借りかえできる分は借りかえをして、また繰上償還できる分は、一般財源も必要でしょうし、補償金というような部分の積み上げもしてからのそういうふうな繰上償還でしょうけれども、以前そういうふうな形で御提案をさせていただいた経緯の中で、これが今年度までという事業があるかと思っておりますけれども、とりあえずこの分に関してどのくらいの実績が出たのか、また繰上償還によってどれだけの資金効果があったのか、ちょっと確認をさせていただきたいと思っておりますけれども、御答弁をお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

角政策部長

○角政策部長〔登壇〕

旧資金運用部、財務省ですけれども、それから旧簡保資金、旧公営企業金融公庫から借入れた年利5%以上の公的資金について、補償金免除による繰上償還を平成19年度から21年度、3年間実施いたしております。その繰上償還による利息の削減効果、利息を支払わないでいいような効果ですね、これが一般会計におきましては2億3,900万円、水道事業会計におきましては6億7,500万円、工業用水道事業会計におきましては3,100万円、合わせて9億4,500万円の効果が出ておまして、非常に本市の財政指数に貢献しているというふうに考えております。

平成22年度から引き続き実施されておりますが、公的資金補償金免除繰上償還の対象となる市債は現在のところございません。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私のほうから補足をいたします。

これは覚えられている方も多数おられると思うんですけど、牟田議長のお父さんが市長さんだった時代、これはもう本当に武雄市の財政が火の車になって、債権団体一步手前までなったと——もうなったという中で、きょう後ろにありますけれども、その当時の職員、まだ若かりしころの職員が、これは何とかせんばいかんばいと、これは旧武雄市に限って言うと、せんばいかんということ、先ほど部長から答弁がありましたように、繰上償還をどんどんどんどん早めていくということは、これはもう中野財政課長の強いリーダーシップだと思うんですね、ミドルアップとミドルダウンの。

ですので、そういう職員の見識と実行力で繰上償還を果たせて、その結果、これはこの前の選挙で私言えばよかったんですけど、ちょっと気が弱くてですね。（パネルを示す）私が市長に就任をさせていただいた平成17年のときは408億円、これは地方債残高、総借金です。408億円の総借金があったのが、今どうなっているかという、21年で326億円までなっているんですね。82億円の減ですよ。400億円が320億円までなっているということからして、私はこれは、単に繰上償還ではないんですけども、病院事業会計の廃止に伴う繰上償還というのも大きいですね。これはもう正副議長と黒岩特別委員長に本当に感謝をしたいというふうに思っています。議会の後押しがあつて未来の借金がこういうふう減っていくということですので、あとは他の自治体で見られるような無理、無駄な箱物をつくらなかったと、今あるものを活用するという結果、ここまで、もう市民の皆さんたちのおかげだと思っております。

私たちの役割としては、必要な事業というのはきちんとやらなきゃいけないんですけども、やはり市政ということ、あるいは武雄市というのは、次の世代に引き継がなきゃいけないということからして、もっとももっとこの借金というのを減らすという努力をしていかなければいけない。そういう意味でいうと、重ねてではありますけれども、私どもの職員の機動力については、本当にこれが結果に出ているということはぜひ市民の皆さん方も御理解をしていただければありがたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

一方、国は借金がふえているんですよ。そういった中で、武雄市はここまで切り詰めて借金減らしといたしますか、82億円の減と。非常に努力は評価をさせていただきたいと思います。

あえてなぜこれを確認したかというのは、いろんな国の制度があるわけですよ。その制度を確実に活用されて努力をされているかという部分のチェックも我々議員の役目ですから、あえてここで確認をさせていただいたところでございます。

そういったことで、この制度もよかったものですから、あと3年延長されたわけですよ。しかし、武雄市の場合は10年度までですべて完了したと、繰り上げ、あるいは借りかえに見合う起債に関しては完了したということでしたので、またいろんな制度が出たときにはこんな形で対応をよろしくお願いを申し上げて、武雄市の取り組むべき政策の最後の質問をさせていただきます。

こども議会の提案について、市長に改めて御見解をお尋ねしていきたいと思いますが、このこども議会は一昨年、私のほうが未来の武雄市を背負ってくれる子どもたちの声を市政に何とか届けたいということで提案をさせていただいて、去年第1回目、またことし2回目をさせていただき、9月の市報にも大きく一面にその状況を載せていただいたようでございます。非常に教育委員会、また先生方にも感謝を申し上げながら、きのうは市長賞、議長賞という話も出て、私も若干聞きながら寂しい思いをしたところでもございましたけれども、パネルあり、提案ありで、非常に子どもたちの、冒頭にも申し上げた活発な意見、提案が出たところでございます。

そういった形で、いろんな提案、移動図書館、花火大会をしたらどうでしょうか、もう少し大人のたばこのマナーを、規制をしたらいいんじゃないですか、市長さんというような、いろんな提案が、子どもたちの素直な意見が出ておりました。そういった形の中で、やっぱり未来を担ってもらう子どもたちの夢といたしますか、あるいは子どもたちの思いを一つでも取り組むような形で、せっかくのこども議会での提案に向けての、一つでも取り組みをお願いしたいという部分の中で、今回のこども議会の提案について、市長の御見解、感想等を、御答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

こども議会は、本当に私は成功していると思います。これはまず、やっぱり松尾陽輔議員が2年前にこういうふうにある提言をされたということと同時に、最初の議長であられた杉原豊喜議長が本当に、もう本物の議会と同じようにしていただいたということが、やっぱり成功の一つの要因だというふうに思っています。そして、今回は牟田議長だったですけど、本当に目線を下げて、私たちもそうなんですけれども、本当の、本物の議会をこういうふうにしたということで、子どもたちがそれにこたえて活発な意見展開をしてきたというふうに

私は深く認識をしています。

その上で、我々は聞きっ放しではだめだと思います。逆に、聞きっ放しだと子どもたちがやっぱり、ああ、大人は聞くだけかいと、多聞第一は大事ですよ、大事ですけど、聞くだけかいということになりますので、今、関係各部において精査をしています。これについて、予算を伴う話もありますが、次のこども議会、また夏になると思いますけれども、そのときにやれるものについてはこういうふうにやっていますということをきちんと報告しようと思っています。報告をした上で、これが市長の演告のようになるかもしれませんが、それはやっぱりやる義務があると思います。全部できないかもしれませんが、やはりこれはこういう理由でできない、これはこういう理由でやろうということはきちんと我々大人世代の責任として行う必要があるだろうというように認識をしています。

ですので、こども議会は、これは教育委員会の所管ですので、教育委員会が中心となって考えていく話ですけれども、私自身としてはぜひ来年も続けて、ある意味夏の風物詩にしていきたいと。また、さらに育てていきたいというふうに思っておりますので、きのう市長賞とか議長賞が悪いという指摘については私も悲しい思いをしましたけれども、それは意見と意見として、またいい方向にとらえてやっていきたいと、このように思っています。市長賞もやろうと思っています。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

ぜひとも子どもたちの夢といいますか、思いをぜひとも、1つでも結構ですから、実現の方向で御検討をしていただきたいということを切にお願いを申し上げまして、大項目の新しい福祉への取り組みについて質問を移っていききたいと思います。

ただ最初に、今回は新しい医療制度についてお尋ねを先にさせていただきたいと思います。

私自身、医療は公平、平等でなければならないという考えを持っております。そういった状況の中で、医療保障制度としての公平性の観点から、国民健康保険制度についてお尋ねをしていききたいと思います。

6月の一般質問でも土地開発公社の決算の中から事業の方向性を指摘させていただきました。今回は、武雄市の健康保険事業会計の収支状況をわかりやすく説明をしていただきたい。また、この会計には基金、貯金が相当あったかと思っておりますけれども、その推移もあわせて御説明をしていただきたいと思っております。よろしくお願いたします。

○議長（牟田勝浩君）

古賀くらし部長

○古賀くらし部長〔登壇〕

国保会計の状況につきまして、パネルをもって御説明をしたいというふうに思います。

(パネルを示す)平成17年度に1市2町合併いたしました。17年度につきましては、ここに数字上げておりませんが、基金といたしましては、右側のほうを見ていただきますと、1億1,900万円程度の基金があったということになります。

それで、合併をいたしまして、18年度の収支ですけれども、差し引き4,700万円の黒字にはなっておるわけですが、このときに基金の取り崩しをほぼ全額行っておりまして、1億1,900万円を取り崩しているという状況でございます。したがって、単年度でいきますと、収支は赤字であったということが言えるんじゃないかというふうに思っております。

次に、19年度ですけれども、19年度につきましては、国保税率の改正もさせていただきますと、そういうふうなこともございまして、前年度の繰越金よりも若干多くなりまして7,400万円ということになっております。

次に、20年度ですが、20年度につきましては後期高齢者医療制度が始まりまして、国保についても財政の収入、それから支出につきまして大幅な変更がっております。このうち、前期高齢者の交付金につきまして、社会保険の診療報酬支払基金のほうから20年度決算で10億6,500万円いただいておりますけれども、やっとなんか2年後の精算ということになりますので、今回精算で1億円ぐらいの、1億円超の、当時もらい損ないといえますか、精算でふえるということになりますので、そういったものを勘案いたしますと、20年度において約8,900万円の赤字ということで、21年度の収入を繰り上げ充用いたしましたわけですが、この分が22年度において確保ができるんじゃないかというふうな見込みを立てておるところでございます。

次に、21年度ですけれども、21年度につきましては、前年度の繰り上げ充用が8,900万円だったのに対し、21年度は7,400万円の繰り上げ充用で済んだということでございますので、単年度でいきますと若干の収支の改善が見られたという状況にありますので、何とかということでありまして、非常に国保会計としては厳しいというのが現状であるというふうには言わざるを得ないと思います。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

本日の会議時間は、議事の都合によりあらかじめこれを延長いたします。

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私も4年間の国民健康保険事業の収支状況を分析させていただきました。非常に厳しい状況がうかがえます。基金の1億1,900万円も取り崩しをせざるを得なくなり、1億1,900万円の基金が今では60万円ぐらいしかない。また、単年度収支でも20年、21年度は大幅な赤字というふうな状況の中で、果たして単独で改善が可能かといった部分の中で、非常に厳しいという部分で私なりに見解を出さざるを得ない。

そういった状況の中で、新聞でしたか、「国民健康保険「県単位の広域化」」という大きな見出しが出ております。また、その後には国保、県内統合へ協議、市長会、それと知事との間で、前向きに国保の県内統合へ向けての協議がされているようでございますけれども、やっぱり県一本化となってくると、それだけのスケールメリットが当然あるものと私も判断をしておりますけれども、その辺を含めて、その辺の当市の対応と、今後どのようなスケールメリットを統合化によって見込まれておられるのかどうか、その辺の方向性を市長、御答弁をお願いしたいと思います。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、驚きましたね。市長会と知事確認ということで、国保、県内統合へ協議、これ佐賀新聞の一面に大きく載ったんですけれども、市長会と知事確認で財政悪化を懸念ということで、これ実は、知事の了解をとって、市長会のとときに知事に要望しているとき、私ツイッターしていたんですよ、ずっと。これは知事のちゃんとあれとりましたからね、ツイッターしていたらですね、もう次々に佐賀県内の職員とおぼしき方から、あるいは関係者から、これはぜひやってくれということが来て、ああ、これはもう首長だけじゃなくて、多くの皆さんたちの思いなんだと思って、最初に先鞭を切ったのがこの私であります。もうぜひ県で一本化してほしいと。そのかわり、全部県に押さえつけるわけじゃなくて、国の今の国庫負担の割合を上げるということと、もう1つは、県は県で保険料、国保の料金を統一してほしいということ、それともう1つが、我々は窓口はきちんとやりますと、徴収はきちんとやりますということで、やっぱりこれはもう国、県、市がばらばらではなくて一体となってやっていくという意味での一体化を提言し、その場で多くの首長さんからは——全部ですね、全部の首長さんからこれはいいだろうと、行こうということを言われましたので、そういう制度設計を今するということで、今、県のほうから私どもに対して、どういう一本化がいいのかという調査が内々来ていますので、私たちとしては事務方と一緒に、もう早く県内統合をするということが必要だし、それが先ほど議員がおっしゃられたスケールメリットにもつながっていくと思いますし、市町村じゃこれは無理ですよ、国保は。もう本当に、これは嬉野市長さんもよくおっしゃっていますけれども、本当に国保をこういう小さな市とか町で抱えるという時代じゃないと私は思っていますので、それは古川知事も同じなんですけれども、これこそが広域行政の一つのあらわれだと思いますので、ぜひやっぱり統一して一本化して進めていく方向で私自身も頑張っていきたいと思っております。これが結果として国保の制度が長続きする、もう唯一残された方策だと思っていますので、そういう意味で、ぜひ議会の皆様方からも活発な御議論、アドバイスを賜ればありがたいと、このように思っております。

○議長（牟田勝浩君）

6 番松尾陽輔議員

○6 番（松尾陽輔君）〔登壇〕

私も何とか国庫負担の引き上げ、それと、もし広域化、統合になったときには料金の均一化と、それはもう大前提の中で取り組みをしていただきたいと思う状況の中で、玄海町あたりはもう一般財源から繰り入れをしているわけですよ。そういうふうな部分もいろいろ、今すぐ統一化というのは非常に現実的には厳しい状況かも知れませんが、早急にリーダーシップをとっていただきながら、ぜひともその辺の改善に向けて、今先ほどの収支状況報告を確認したところでは、もう現に基金が底をついていると、このような状況でいけば、単独でいけば、保険料の引き上げをせざるを得んというところまで来ているわけですよ、現実問題。あと2年後、3年後、そういうふうな状況がもう現にわかっている状況であれば、いち早くそのような統合に向けて、広域化に向けて、御検討をよろしく願いをしておきたいと思います。

ただ、そういった中で、医療制度と介護保険事業というのは別物かも知れませんが、介護事業もやっぱり広域化、県で統合をしながらこういうふうな形で、国保事業と一緒にのような形の見解の中で統合をしていくべきではないかと、介護事業に関しても。ただ、一元化は当然無理だと思うですよ。ただ、スケールメリット的に、あるいは今後介護というのが非常に増加していく中で、介護保険料も引き上げざるを得ないと、せっかく国保事業もこういうふうな一元化の中で県が一まとまりになろうという部分の話し合いがある中で、介護事業もそしたらどうしようかという部分の両論併記で、ぜひとも御検討をすべきと私のほうから提言をいたしたいと思いますが、市長の御見解を確認しておきたいと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

この部分は、議員とちょっと私は反対なんです、悪い意味ではなくて。どういうことかという、例えば、国保の場合は住んでいるところによって、その国保の払う額というのが違う。例えば、一番高いところ安いところで10万円以上違うんですね。あえて名前は出しませんが、10万円以上違う。武雄は大体真ん中ぐらいなんですけれども、10万円以上違う。といったときに、本当にそれでいいのだろうか。日本国憲法に規定されているように、住んでいるところでそういう負担が違えていいのかという問題があると思いますので、これはやはり県単位、本当は国が一本化がいいんですけど、もう国も倒れようとしていますので、それは2番手として県が一本化するということは多分適切だろうというふうに思っていますので、国保はその流れで論を進めていきたいと思っています。

他方で、介護保険の場合は、これは介護保険というのはもう密着サービス、まさに現場の

サービスですので、これは先ほど山口昌宏議員にお答えしたとおり、これは今県が認可を持っているんですね、その介護関係の施設については。しかし、介護保険料というのは広域圏の管理者が取る規定になっている、そこにずれが生じているんですね。ですので、それは県に一本化する、認可も介護保険料も一緒に取るというのは一つの方策かもしれませんが、少なくとも私が現場を歩いて見聞きした観点からすると、これは市町村長が介護保険料とともに、そのサービスもセットでやはり認可をするということが求められている。これは本当に介護保険料、もう難民と言われる方が武雄市だけで280人超されているんですね。

ですので、みんなで分かち合うという観点から、それが解消できますという説明をして、介護保険料を上げるなら上げるということを責任持って言うことが今求められているのではないかなと思いますので、そういう意味で、私は国保の部分と介護の部分というのは、そのサービスの性格からして、対価サービスの性格として、根本的に異なるのかなというように思っています。ただ、議論の整理の仕方とすれば、県で一本化ということもあり得ると思っ
ていますし、それが県民感情、市民感情からしても妥当かもしれません。それはもっと広く議論をしていきたい。今の現状は最悪だということだけは、ぜひ申し添えたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

要は、介護事業は現場主義と、当然だと思いますけれども、私が申し上げたのは、介護事業会計も国保会計の二の舞になっていく可能性というか、おそれがあるわけですよ。全くないというのはだれにも否定はできないわけですから、そこを危惧する一人として、当然、県内統合という部分の中で協議をすべきじゃないですかという部分で見解を市長に、また市長会、また知事との懇談会、我々がそこに入るわけにいかんもんですから、市長にその辺の確認をさせていただきながら見解を述べたところですけども、いま一度その辺は、御答弁をよろしく願いいたします。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

いや、全くそのとおりだと思います。確かに、私の案だと市町村に、じゃ、会計を持っていったときに、国保の二の舞になるという副作用というのは十分にあると思います。したがって、私の論が成り立つためには、やっぱり国の補助割合ですよ、これをきちんと確保しなきゃいけないというのが前提ですので、先ほどのいい面、悪い面あると思いますので、議員の御指摘を踏まえて、また県内でよく市長会、あるいは知事との懇談会等で話し合ってい

きたいというように思っています。古川知事もこの件に関しては多大なる、当然ですけど、関心を持たれていますので、先ほどの御意見を踏まえてまた議論の糧にしたいと、このように思っております。

以上です。

○議長（牟田勝浩君）

6番松尾陽輔議員

○6番（松尾陽輔君）〔登壇〕

少子・高齢化は、負担はだれがするのかということです。負担は今からの子どもたちですよ。それを何とか最小限に抑えるのが今の我々、行政の仕事ではないでしょうか、市長。それを肝に銘じていただきたいということで質問に上げさせていただいたところでございます。

そういったことで、あと時間が3分ということで、1時間半もあっという間に過ぎてしまって申しわけないんですけども、まだまだ県の国保会計も一元化がもう少し時間がかかる中で、介護予防という部分も非常に今後大事になってくるかと思えます。また、介護予防の取り組みはどうか、重要ですよ、介護の予防医療に関してはどのような質問もさせていただいてはおりますけれども、そういった状況の中で、今後介護予防、医療予防に関しては、最重要課題として武雄市も取り組んでいただきたいことを切にお願いを申し上げておきたいと思えます。

それと、最後になりますけれども、AEDの設置も質問をさせていただいておりますけれども、また次の機会にさせていただきながら、最後の質問で、新しい福祉への取り組みについての新しい福祉制度のあり方についてということで質問を上げさせていただいております。

公明党もこの分に関しては積極的に国政の中でも与党に申し入れをさせていただいたところですけども、この件にしても、先ほどの山口昌宏議員と多分に重複する部分が多かったものですから、私からは、要は障がい認定のはざまにおられる方々、あるいは精神疾患、国民病と言われるうつ病の方が非常に多い。うつ病になられている方が全国で250万人ですよ。人口比率からいけば2%、武雄市が5万人と仮にしたときに1,000の方がうつ病有病者なんです。そういった方々が付随して、引きこもりとか、児童虐待とか、いろんな形で心の病を持たれる方がいらっしゃる。

そういった部分に関して、今までの福祉で届かなかった福祉といいますか、例えば、認定されていない障がい者への対応、あるいは精神疾患に対する新たな福祉制度のあり方という部分が今、社会的な問題として顕在化をしております。ぜひとも武雄市としても、こういう方々に目を向けた福祉制度の取り組みを今後推し進める必要があるかということで、必要性は非常に感じている私ですけども、もう一度新たな福祉制度に取り組む思いを、市長の答弁をお聞きして、最後の質問にさせていただきます。御見解をよろしく申し上げます。

○議長（牟田勝浩君）

樋渡市長

○樋渡市長〔登壇〕

私は、福祉といった場合に、その範囲がまた広がっていくというふうに思っていますので、そういうきめ細かな福祉をきちんとやっていきたいと、このように思っております。

以上です。